

第4回日韓土砂災害防止技術会議参加報告

比留間雅紀*

1 はじめに

秋の気配が日一日と濃くなってきた平成17年10月19日、日本都市センターホテル（東京都千代田区平河町）において「第4回日韓土砂災害防止技術会議」が開催された。

同会議は、平成14年から日韓、両国の制度、研究、技術、施策等に関する情報や意見の交換を目的に、毎年、韓国・日本交互に開催されているものである。

今回、日本側事務局としてこの会議に参加し、会議後の視察にも同行させていただいたので、概要を報告する。

2 第4回日韓土砂災害防止技術会議

韓国からの一行は、10月18日に来日し、国土交通省を表敬した（写真1）。

会議は、10月19日、ホテル607会議室で開催された。会議参加者を表1に示す。日本側からは亀江幸二国土交通省砂防部長他14名、韓国側からは具吉本山林庁山林保護局長他4名が出席した。

日本側4題、韓国側4題の発表があり、発表ごとに設けた質疑応答ではかなり時間を超過するほど、議論が白熱した。特に、開発が早いGISや情報機器の利活用や新工法、について、双方から詳細な質問が寄せられた。

各発表内容については既に『砂防と治水』に詳しいのでここでは割愛する（写真2）。



写真1 砂防部長表敬訪問

3 現地視察

会議終了後、西本火山・土石流対策官随行的のもと、視察旅行へと出発した。

10月20日は、国土交通省日光砂防事務所にて田井中所長から事業説明を受けた後、男体山山腹の大薙

表1 会議参加者

【日本】

亀江幸二	国土交通省砂防部長
中野泰雄	国土交通省砂防部砂防計画課長
西本晴男	国土交通省砂防部砂防計画課火山・土石流対策官
小林幹男	国土交通省砂防部砂防計画課長補佐
小木曾俊夫	国土交通省砂防部砂防計画課砂防情報係長
小山内信智	国土交通省国土技術政策総合研究所 危機管理技術研究センター砂防研究室長
寺田秀樹	独立行政法人土木研究所土砂管理研究グループ長
栗原淳一	独立行政法人土木研究所土砂管理研究グループ 火山・土石流チーム 上席研究員
秋山一弥	独立行政法人土木研究所土砂管理研究グループ 火山・土石流チーム 主任研究員
池田暁彦	(財)砂防・地すべり技術センター砂防部技術課長代理
蒲 正之	(財)砂防・地すべり技術センター企画部長
五十嵐禎三	(財)砂防・地すべり技術センター企画部調査役
比留間雅紀	(財)砂防・地すべり技術センター企画部国際課長
加藤誠章	(財)砂防・地すべり技術センター企画部企画情報課技師

【韓国】

具 吉本 (Mr. KOO Gil-bon)	山林庁山林保護局長
崔 正仁 (Mr. CHOI Jung-in)	山林庁災害担当事務官
程 龍鎬 (Dr. JEONG Yong-ho)	山林科学院林地保全科長
全 權雨 (Dr. CHUN Kun-woo)	江原大学山林資源学科教授
麻 鎬燮 (Dr. MA Ho-seop)	慶尚大学山林科学科教授

* (財)砂防・地すべり技術センター企画部国際課長

山腹工を視察した（写真3）。午後からは足尾に移り、渡良瀬河川事務所に松木山腹工を案内していただいた。韓国でも裸地化しているところは多らしく、使用樹種や管理、地元住民との連携などについて熱心に質問をしていた。

10月21日は富士砂防事務所にて富田所長から事業説明を受けたのち、大沢扇状地にて大沢崩れ対策を視察した（写真4）。そして大沢扇状地からの土砂を養浜に利用している富士海岸視察後、神奈川県茅ヶ崎市に移動し、神奈川県庁ならびに藤沢土木事務所に案内していただき、湘南海岸砂防林を視察した。松は韓国では最も一般的な樹種で、その管理は仕事上、重要な位置を占めるとのこと。視察時も松の管理について、詳細な質問がなされていた。

今回の視察日程はタイトなもので、一同、さぞかし疲れたことと思うが、会議の内容で分からなかったことや思いついた疑問点について質問するなど、

表2 発表題目と発表者

- 最近の土砂災害と施策
小林幹男
- GISを用いた崩壊危険地管理システム構築
崔 正仁 (Mr. CHOI Jung-in)
- 日本における土石流研究の現状について
栗原淳一
- PDAを用いた土石流現地調査プログラム開発
程 龍鎬 (Dr. JEONG Yong-ho)
- 土砂災害の概要と警戒避難～平成16年7月福井豪雨災害の事例～
池田暁彦
- 東海岸山火事被害地の土砂流出と対策
全 權雨 (Dr. CHUN Kun-woo)
- 土砂災害に関するデータの蓄積・共有化に向けて
小山内信智
- 金海市梅里地域の山崩れ発生特性と斜面安定対策
麻 鎬燮 (Dr. MA Ho-seop)



写真2 池田課長代理の発表

しながら移動教室のようで、精力的に見ていただき、有意義なものであったと思う。

4 おわりに

成田出迎えの時のこと。「ウェルカム・トゥ・ジャヤ……」。「こんにちはっ！ 出迎えありがとうございます！」あれっ、日本語話せるじゃないか。聞けば、山林科学院の程さんは九州大学大学院で修士を、全先生は北海道大学大学院で博士を取ったとのこと。彼らに日本に対する良い思い出と印象を残してくれた大学の先生方に、心の中で感謝した。

4回目となる今回の会議では、お互いに顔見知りのメンバーも多く、だんだんと交流が深まっていることを感じた。国際交流は人と人とのつながりが基本であるから、言葉の問題はあるが、手を抜かず積極的に対応していけば、良い関係を築けるものだと思う。

韓国とのさらなる交流発展を深めていけるよう、今後とも関わっていきたい。



写真3 明智平にて

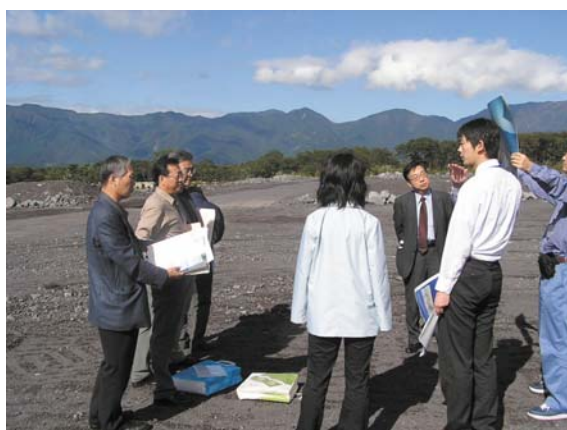


写真4 大沢扇状地で説明を受ける